



# 唐泉山を仰ぎみて

嬉野市立塩田中学校  
「学校だより No12」  
令和8年3月2日  
文責：校長 宮崎武司

## 学校教育目標 「心豊かに とともに 伸びる」

～ 仲間とともに伸びる 教師とともに伸びる 保護者・地域とともに伸びる ～

### 【県立高校入試、そして卒業式】

明日からの2日間、県立高等学校一般選抜試験が行われます。塩田中からも67名の生徒が挑みます。多くの人にとって最初に経験する「自分の意思で選び、努力し、挑む」大きな試練ではないでしょうか。高校受験は、「どこで学びたいか」「何をしたいのか」「どんな自分になりたいか」を考えるきっかけになります。また、結果だけでなく、そこに至るまでの過程が大きな財産となり、結果をどう受け止め、どのように次につなげるかが、これからの人生を豊かにしていきます。さらに「できるかもしれない」「やってみよう」という気持ちが、これからの人生を支えてくれるはずです。

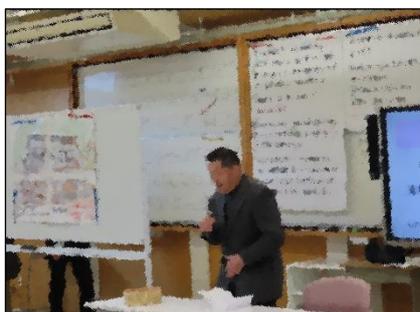
明日入試を控えた3年生のみなさん。持てる力を十分に発揮できることを心から祈っています。

そして、3月6日（金）は卒業証書授与式です。中学校の教育課程が修了し、次の世界が始まることを意味します。「中学校での学びの終わり」と新たな生活の始まりを祝う日」と捉えることができるでしょう。卒業式を迎えるにあたり、3年生のみなさんには、ぜひ「どんな想いを持って卒業式に臨むのか」をじっくり考え、その日を迎えてほしいと思います。

### 【2年生 平和学習】

2年生は、来年度の修学旅行に向け事前学習をしており、その一環として平和学習を行っています。

そのような中、2月18日に平和学習講話を行いました。講師は、久間在住の吉田幸子さん・吉田照彦さんでした。吉田幸子さんは、「戦後80年の節目に、中学生に戦争中の体験を話し、平和について考えてほしい」との思いで講話をしてくださいました。



#### 【2年1組 生徒感想】

吉田さんの話を聴き、「平和」とは何かを改めて深く考えさせられました。特にお話の中で心に残ったのは「失われてから気付くのは遅い」という言葉です。今、私たちが当たり前を送っている毎日や、友達と過ごす何気ない時間は、一度失われてしまったら取り戻すことができません。平和が壊れる前に、その尊さに気付き、守っていくことの大切さを強く実感しました。また、「平和は一人じゃなくて、みんなでつくるもの」という言葉を聞いて、自分にできることが見えてきた気がします。みんな元気に、みんな仲良く、笑顔で過ごせる日々こそが一番の幸せであり、その幸せを自分たちの手で広げていくことが、平和への第一歩なのだと思います。戦争という悲しみを二度と繰り返さないでいいように、人が人として生きられるように、一人一人が手を取り合うことが必要なのだと感じました。過去を変えることはできないけれど、過去から学び、より良い未来を創ることはできると私は思いました。



## 【嬉野市青少年弁論大会】

2月に、嬉野市青少年弁論大会が行われました。塩田中からは2名の生徒が最優秀賞の表彰を受けました。今回は2名のうち1名の生徒の作文を紹介します。もう1名は次回の学校だよりで紹介します。

「背中を押してくれる存在」 二年生

「やってみない。」何気ないその言葉が、私の背中を押してくれました。挑戦することが苦手な私にとって、その言葉は魔法の言葉となりました。「積極的に行動したい。」そのように目標を立て、心に決めても、授業中の発言や行事ごとの実行委員などに、なかなか手を挙げる事ができませんでした。結局は口だけで終わることがほとんどでした。失敗を恐れ、挑戦を避けてしまう自分に、モヤモヤすることが何度もありました。

そのような中で、いくつかの挑戦する機会が私に与えられました。

一つ目は、職場体験です。将来の夢として歯科に関わる仕事をしたいと思っていたため、体験先として歯科医院を紹介されました。他の体験先は複数人で組まれている中、先生に「一人でやってみないか」と言われました。不安な気持ちが大きく膨らみ弾けそうになりましたが、自信をつけるために良い機会だと思い、「やってみます」と返事をしました。緊張しながら取り組んだ二日間でしたが、体験先の方々に支えられ、無事に終わることができました。体験後、「挑戦してよかった」と心から感じ、私は少しだけ強くなれた気がしました。

二つ目は、学級委員です。「学級委員になりたい人」と先生が言われました。私を含め、クラスの誰も手を挙げようとしませんでした。「やってみようかな」そう思いながらも、手を挙げることをためらっていました。そう思った矢先、友達が「一緒に学級委員をしてみない」と声をかけてくれました。背中を押してくれた友達のおかげで、私は学級委員に立候補することができたのです。学級委員になり、友達と協力しながら学級をまとめることに専念しました。クラスのために行動する責任感と充実感を味わうことができました。この貴重な経験をすることができたのは、友達の存在だと改めて感じています。

三つ目に挑戦したのは、「生徒会長選挙」です。友達が生徒会長に立候補しました。その責任者として、私を選んでくれたのです。人前で話すことが苦手な私でしたが、友達を応援したいと強く思い責任者を引き受けました。責任者に選んでくれた友達のために、全校生徒の前に立ち、友達を精一杯応援しました。生徒会長に立候補した友達の背中には、とても頼もしく、輝いていました。「私も勇気を出そう」そう思えた演説でした。

そこで私は、生徒会役員にエントリーしました。学校を支えていける存在になれるように、普段の生活から見直し、何事にも挑戦していく自分でありたいと強く思ったからです。

この一年を通して、私はたくさんの人に支えられながら生活していたのだと気付くことができました。特に、友達と一緒にいるのが当たり前の存在でした。見えていないことがたくさんあったのだと改めて気付きました。支えてくれる人たちのためにも、自ら行動できる人でありたいと思いました。先生や友達が、私に挑戦するきっかけを与えてくれたように、今度は私が、誰かの心の奥にあるはずの挑戦する心に、寄り添えるような存在になりたいと思っています。

「やってみない」「一緒にやってみよう」そっと背中を押せるようなその魔法の言葉を、今度は私が言えるような存在になりたいと思っています。